

森 りょうじ

森
が
動
く。



流山市議会議員

討議資料

新型コロナの影響により、私たち議員は式典・イベントに出席する機会が減少しています。このような活動は「大切な公務」という意見もありますが、他方で式典の簡素化に繋がると言った声もあります。是非を論じる段階ではありませんが、新型コロナは政治活動様式を変えつつあります。

令和3年1-2月号 森りょうじ リポート。(103号)

～ 森が動く、皆さんと一緒に動く。～

清々しく新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。幸多き一年となりますようお祈り申し上げます。

■森が問う。(一般質問ダイジェスト)

令和2年第4回定例会(11/26～12/16)では、1年ぶりに一般質問を行いました。私が務める監査委員は、年間を通じて行なう監査業務の中で、各部署に質問が出来るポジションです。ただ既に実施している事業などを検証する立場ですので、“これからの流山市”について議論をしていくと言う点では、一般質問の機会が監査業務で行う質問以上に大きな効力があります。

今回は①ポストコロナ時代の庁内体制②流山市の成長戦略③動物愛護について流山市の方針を質しました。詳細は裏面、流政会だより(1/11)と議会だより(2/15)でも掲載されます。ぜひご覧ください。



■陳情・市民相談に応じています。※一部抜粋

- ① 動物愛護活動(学校での授業実施・NPO活動の支援)
- ② 自治会活動のサポート(会館建替え・高齢化対策)
- ③ 若者の創業支援(制度の案内、関係機関への橋渡し)

■ご案内(森から皆さまへ)

- ① 令和3年第1回定例会の日程案は2/18-3/22です。
- ② 次回の駅活動は令和3年4・5月に実施予定です。
※屋外活動は感染状況を見ながら実施して参ります。

○1976年6月12日流山生まれ(44歳) ○家族:妻

※サラリーマン家庭(父はNTTに勤務)で育つ
流山市立新川小、流山市立北部中卒業
日本大学第一高校、武蔵大学経済学部卒業

○2000年4月 大成建設株式会社に入社(管理部ほか)

○2003年4月 流山市議会議員に初当選(2,692票)

○2011年4月 流山市議会議員二期目当選(4,508票)

○2015年4月 流山市議会議員三期目当選(5,830票)

○2019年4月 流山市議会議員四期目当選(8,961票)

※政治理念はケネディ大統領の「国が何をしてくれるかではなく、自分が国のために何ができるか」。

一般質問①

【ポストコロナ時代を描く】

新型コロナの影響により、業務、働き方、ライフスタイルなど様々なものの、見直しや変化が求められています。言うまでもなく私たち議会や行政も同じです。組織の在り方や会議等のオンライン化…コロナ時代に描くべき社会の姿は、まだまだ変わっていきそうです。

デジタル人材の確保と育成

デジタル技術を使って業務を変えていくことをDX（デジタル・トランス・フォーメーション）と言います。進めていくには高い専門性が求められますが、デジタル化の遅れが指摘されている行政内部には

資料①：流山市×デジタル化

【提案理由】

- ①効率化・生産性の向上
→総合計画・市政経営の基本方針
- ②市民サービスの向上
- ③業務改革(コロナ禍で加速)
→業務プロセスを破壊し、新しく構築

- ①高い専門性や創造性(研修)
- ②有資格者(採用・募集)
- ③民間人の活用 ※東京都
※ICT教育推進委員会・推進顧問



デジタル技術に詳しい“デジタル人材”が不足していると言われていています。今後、民間企業との獲得競争が必至であり、早期の対応を求めました。研修等を強化していくとのことです。

民生委員業務のデジタル化について

対面を前提とする業務を行う職種に民生委員・児童委員があります。人と会うことが基本である私たち議員の活動も、コロナ禍では大変苦労しています。最近はオンライン面談を希望される方もいらっしゃいますが、そう多くはありません。感染再拡大の今は、改めて事業が継続出来る環境整備を考える必要があり、デジタル技術を活用するのもその一つです。また事務の効率化を図ることも出来るため、慢性的な人員不足解消の手段になることも期待できます。

ただ見守り対象者のデジタル化が課題であり、答弁は慎重な姿勢を感じるものでした。

資料③：民生委員活動×ICT

【提案理由】

- ①対面を前提とした活動(感染リスク)
- ②業務負担の軽減※R1元年決算資料より
→一人当たり2,017～102世帯担当
- ③人材不足(定員185名※31名不足)
→平均年齢66.7歳(77歳～41歳)

- ①業務改革(DX)※脱対面
- ②事務の効率化(ICT化)
- ③対象者にICT機器を指導
→ICT版民生委員(総務省)



一般質問②

【流山市がさらに成長するには？】

流山市の成長(人口増加)は令和9年頃まで続く見通しです。ではその後の本市の発展をどう描くべきか…それは政治が考え、皆さんに示していく責任があります。今回は①中核市の可能性②道の駅構想③つくばエクスプレスの機能強化と維持について質問しました。

ついに人口20万人都市へ！

流山市の人口が20万人になります。このまま一般的な市として運営していくこともありですが、「中核市」に移行することも選択肢の一つになってきます。コロナ禍では国と県市の間で、役割分担や責任の所在が曖昧な点が目立ちました。また意思決定にも時間が掛かり、混乱を招いたことは記憶に新しいところです。中核市になることで大きな権限をもって、難題を解決することが可能になります。

一方で中核市移行は事務やコストの負担が増えるため、様々な角度から検証する必要があります。活動の中では、移行を期待する声もあります。調査研究の必要性を求めましたが、計画はないとの見解が示されました。

一般質問③

【小さな命を大切に】

公共施設で保護猫・犬の譲渡会開催を！

コロナ禍で在宅時間が増えたこともあり、動物を飼われる方が増えているそうです。その際、ペットショップ等に行かれるのが一般的ですが、最近では保護猫・保護犬を扱う「譲渡会」を通じて動物を引き取る方も増えています。ただし、団体関係者にヒアリングをしたところ、開催場所に苦労しているお悩みの声がありました。“公共施設での開催”を求めたところ、環境部長から前向きな答弁がありました。

資料⑦：流山市×ペット譲渡会

【提案理由】

- ①保護犬・猫への理解が拡大
→「生体販売」から「譲渡」へ
- ②活動支援は、まだ脆弱。
→企業の支援は拡大傾向中
- ③譲渡会の周知と理解不足

- ①安定的な開催場所の確保
- ②公共性の高い場所→公共施設
- ③屋根がある場所(夏・冬の対策)
→動物の権利(アニマル・ライツ)



WebSite「森りょうじ」を検索！
また Twitter・Facebook も更新中！

【事務所】流山市中野久木 559-2
TEL & FAX:7155-3236